

ゲームのためにアルバイト。私はどうも納得がいきません。詳しく聞くと、「ゲームのランキングが上がると、『自分自身の価値』が上がる」と言います。そういえばゲームにのめり込む子の多くが、日常生活に誇ることがない場合が多いようです。

テストの点数が高いとか、部活で活躍しているとか、そういう子はゲームなどをしても、そこまでのめり込みません。彼らの承認欲求が既に満たされているのかもしれない。

ゲームにのめり込む子は、課金し、ランキング上位者になることでしか、自分の価値を確かめられないのかもしれない。そう考えると急に彼らがかawaiiそうに見えてきました。

「ゲームはお金をつぎ込んだだけ結果が出る」というE男の言葉が印象的です。逆に言うと、彼らにとって勉強も部活も、もっと言えば人間関係も、「いくら頑張っても結果が出ないもの」なのかもしれません……。だからゲームにのめり込むのだとしたら、子どもを受け入れていくという点で、現実社会はゲームに負けているのかもしれない。私たち教育関係者に突き付けられている、大きな課題と受け止めるべきでしょう。

【R3宮崎日日新聞の記事より】

コロナ休校長引く子どもたち



新型コロナウイルスの感染拡大で休校が長期化し、自宅で過ごす子どものインターネットやゲーム依存が懸念されている。休校期間中にネット動画視聴やゲームに費やす時間が増えたなどの調査結果も。依存症の専門家は、生活リズムを崩す危険性に言及し「保護者は時間の管理を」と呼び掛けている。

ネット、ゲーム依存注意

「保護者は時間管理を」

子どものネット・ゲーム依存を予防するポイント

- ネット動画の視聴時間、ゲームのプレイ時間を決める
- 徹夜などで生活リズムを乱さない
- 休校期間中にやるべきことをつくる

※専門家の取材に基づく

アンケートアプリ開発などを手掛けるテストディー（東京都中央区）が3月27日～4月6日、中学生から大学生までの8464人に「利用や視聴が増えた媒体」を尋ねた結果、高校生の71%、中学生の72%が「スマートフォン」と答えた。そのうち利用が増えたサービスを見ると、8割以上が動画投稿サイト「ユー

チューブ」でゲームアプリとの回答も4～5割いた。「自宅内で増えた行動」としてゲーム（スマホ以外）を挙げた中学生は43%、高校生33%だった。依存症の相談などに応じる任意団体エンジェルスイズ（東京）の遠藤美津代氏は「部活動や受験に目標を持たない子どもがゲームなどにはまりやすい。あらゆる活動が制限されている今回の休校では目標を失い、ネットやゲームに没頭する子どもが増えるのでは」と懸念する。

感染拡大後に「ネット動画の視聴がやめられない」という相談も寄せられているが、両親が在宅勤務になったことで、子どものゲーム時間を管理できるような好転したケースもあったという。遠藤さんは「ネットやゲームは子どもたちの重要なコミュニケーション手段になりつつある。それだけに管理する保護者の役割が重要だ」と訴える。遠藤さんら専門家は、子どものネット・ゲーム依存を予防するポイントとして、①ネット動画の視聴時間、ゲームのプレイ時間を決める、②徹夜などで生活リズムを乱さない、③休校期間中にやるべきことを「こころ」を挙げる。

自宅でゲームをする中学生（本文とは関係ありません）

要なコミュニケーション手段になりつつある。それだけに管理する保護者の役割が重要だ」と訴える。

遠藤さんら専門家は、子どものネット・ゲーム依存を予防するポイントとして、①ネット動画の視聴時間、ゲームのプレイ時間を決める、②徹夜などで生活リズムを乱さない、③休校期間中にやるべきことを「こころ」を挙げる。

依存症の専門治療を行う国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横浜須賀野市）の樋口達院長は、現在の外来患者に目立った変化は表れていないとしつつ「生活リズムが狂い、学校再開時に通常の生活に戻れない子どもが増える可能性はある」と指摘した。